

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本テストは【義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。】ことを目的として、文部科学省が設置管理者（都道府県教育委員会等）の協力を得て実施するものです。

Ⅰ 結果・分析（○は成果 ●は課題）

（1）国語 本校平均正答率58%（県59% 国58.1%）

- 多くの問題で全国や県の平均とほぼ同じ正答率となったが、必要に応じて質問しながら話の内容を捉える問題や、具体と抽象など情報と情報との関係についての理解を確認する問題、行書の特徴の理解を確認する問題などにおいては、全国や県の平均を上回る正答率となった。
- 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問題では、平均は超えているものの正答率は低かった。文章と図の、どの部分とどの部分とが関連してるのかを考え、書き手の伝えたい内容を正確に読み取る力に課題がある。
- 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題では、着目する内容を選びまとめることはできているが、着目する内容について必要な情報を適切に取り上げることができていない。文章の構造を踏まえてキーワードやキーセンテンスに留意して情報を整理する力に課題がある。
- 文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる問題では、修飾語と被修飾語の関係について説明している正答ではなく、主部について説明している誤答を選択している生徒が多く見られた。文の成分や文節同士の関係について理解することに課題がある。
- 文章中の接続語を直す意図を選ぶ問題では「調べる理由を明確にする」という正答に対し、「興味をもったきっかけを明確にしようとした」という誤答が目立った。接続語などの役割を理解し、読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめて文章を整えることに課題がある。

（2）数学 本校平均正答率53%（県51% 国52.5%）

- 全国や県の平均正答率を下回る問題は6題で、全体的によくできていた。特に確率を求める問題、正の数・負の数の加法の問題、グラフにおけるy軸との交点についての解釈の問題においては正答率が80%以上と高かった。
- 数量の表し方を問う問題では、偶数が $2 \times$ 整数の形であることから式で表すことに課題がみられた。
- 一次関数は全体として苦手な傾向がある。答えを求めるまでの過程を記述する問題では、数学的な表現を用いて、論理的に表現する力が大切であるため、順序立てて説明する練習をしていく必要がある。
- 合同な図形の証明の記述問題では、無解答が多かった。結論と仮定が理解できていない生徒や、どのように書き始めたらよいのかわからない生徒が多かった。
- 動点の問題や、途中で条件が変わる問題は苦手な傾向がある。証明の意味が理解できていれ

ば、迷わなくて答えられるものもあったが、証明したことで何が言えるのかというところまで理解できるようにしたい。

2 対策

(1) 国語

- ・ 説明的文章を読む際に、図が内容と深く関わり、内容をより分かりやすく伝えるために意図的に掲載されていることを意識付ける。また、図のどの部分が関連しているかを明確にしていく必要がある。そして、その効果についても考えていくことで、書き手の伝えたい内容を正確に読み取れるようにしていく。
- ・ 文章を読む際に、叙述をもとに文章構造や要旨を捉えていくことを徹底して行う必要がある。具体的には、段落相互の関係を押さえたり、キーワードやキーセンテンスなどに留意して必要な情報を適切に取り上げ整理したりする。そして、学んだことを定着させていくために、その他の文章を読み活用する機会を設けるようにする。
- ・ 単元ごとに断続的に文法の学習を行うため定着が図れていないと考える。そのため、文法の基礎的知識が不足している。問題を解きながら復習していくようにすると同時に、練習問題だけでなく文章の中でも文法について問い、考える時間を設けるようにする。

(2) 数学

- ・ $\bigcirc$ の倍数 $=\bigcirc\times$ 整数という形で表現できることを理解させたい。授業の中で数の表し方について触れながら学習を進めていけるようにしていく。
- ・ 答えを求める過程を理解させるために、授業の中で、どのように考えたかを説明し、表現できるような時間を確保する。
- ・ 相似の証明の学習をする際、書き方の手順や仮定と結論等を確認しながら記述できるように指導する。証明の際に、毎回同じような流れで進め定着を図っていく。
- ・ 証明したことで、常に成り立つ事柄があると理解させながら授業展開する。証明の意味についても、相似の証明の中で再度確認していく。